

## アメリカ人は、統制された出来事によって作られたニセの 現実の中に住んでいるのか？

【訳者注】論者のP・C・ロバーツは（訳している私も）、この事件から15年もたって、まだ同じことを説明しなければならないのを、おそらく情けなく思っている。一読してわかる通り、これほど悪質で、鉄面皮の見本のような、腹立たしいウソはないにもかかわらず、いまだに表向きは米政府が正しいことになっていて、メディアではタブーになっている。またそれに協力する人々がいる。この事件が今日まで続いて、戦争の口実になっていることを考えれば、それは人殺しに協力することである。

GeoengineeringWatch, February 25, 2016

By Paul Craig Roberts



知っている、また考えることのできる人のほとんどは、いわゆる“主流メディア”には愛想をつかしている。売春新聞（presstitute=press+prostitute）は、ワシントンにウソをつかせる道具となることによって、信用をなくしてしまった——サダム・フセインの大量破壊兵器、イランの核弾頭、アサドの化学兵器使用、ロシアのウクライナ侵略、等々。“主流メディア”はまた、政府官憲がテロリストのやったことだと主張するすべて——9・11、ボストン・マラソン爆弾、サンディ・フックやサン・バーナーディノの乱射事件など——を受け入れることによって信用を失った。明らかな矛盾、辻褄の合わないこと、信ずるにはあまりにもありそうもない安全保障の失敗などにもかかわらず、主流メディアは疑問を呈したり調査したりしない。それはただ政府の言うことを、何でも事実として報道している。

全体主義・権威主義国家のしるしは、調査して真実を見つける責任を感じることなく、ひたすら、プロパガンダの役割を果たすだけのメディアが存在することである。西側メディアの全体は、長い間、プロパガンダ・モードになっている。アメリカでは、ジャーナリストが完全にプロパガンディストになったのは、様々な独立メディアが、ジャーナリストの経営するのではない、6つのメガ企業に吸収されてしまったときだった。

その結果として、考え深い、知識ある人々は、信じられない公式ストーリーに代わって、問いを發し、事実を押し出し、分析してみせる代替メディアに、ますます依存するようになった。

代表的な例は9・11テロである。多数の専門家が、自己のための現実的な証拠をもたない公式のストーリーを崩壊させた。しかし“9・11 トゥルーサー”たちが供給した確かな証拠が、かりになくても、公式物語は崩れ落ちる。我々が信ずるように言われているのは、ボックスカッター以外に何の技術ももたず、どんな政府の情報局の援助もない、数人のサウジアラビア人が、DARPA（防衛高度研究計画局）とNSA（国家安全保障局）の考案した優秀な監視技術をまんまと出し抜き、人類史上最強を誇る国家に、最も屈辱的な打撃を与えることができたということである。しかも彼らが成功する一方で、米大統領も、米議会も、主流メディアも、このハイテク安全保障国家の、このような大失敗の責任を問う者は、誰もいなかった。このような由々しい安全保障上の失敗を、ホワイトハウスが先導して調査するどころか、ホワイトハウスは一年以上も、どんな調査にも抵抗していた。しかしついに、買収することのできなかつた9・11 被害者家族からの要求に応じ、「9・11 調査委員会」を設けることに同意した。

この委員会は調査することなく、ただ坐って、政府から聞かされるストーリーを書き記した。その後、委員会の議長、共同議長、それに法律顧問が、本（複数）を著し、情報が委員会に与えられなかったこと、委員会は政府役人から嘘を教えられたこと、委員会は「失敗するように仕組まれていた」ことを明らかにした。こうしたすべてにもかかわらず、売春婦新聞はいまだに公的プロパガンダを繰り返し、責任逃れをさせてくれる騙されやすいアメリカ人は、いまだに沢山いる。

すぐれた歴史家たちは、ニセ旗（false flag）事件が用いられて、それがなければ達成できない計画が、成功した例をいくつも知っている。9・11 は、ジョージ・W・ブッシュ政権をコントロールしていたネオコンたちに、ムスリム諸国の覇権的な軍事侵略を始めるために必要だと彼らが言っていた、“新しいパール・ハーバー”を与えた。ボストン・マラソン爆弾事件は、アメリカ警察国家の試運転を許し、これはアメリカの大都市を閉鎖し、1万の武装部隊とSWAT（特殊火器戦術部隊）チームを街路に配備し、戸別に家宅捜査をして、銃口

によって住民を自宅から立ち退かせるものだった。この前例のない作戦は、(明らかに身代わりだったが) 一人の 19 歳の負傷した青年を見つけ出すために、必要だったとして正当化された。

サンディ・フック小学校の物語には非常に多くの奇妙な点があって、疑惑産業ともいえるもの生み出した。私は、おかしい点があるのは確かだと思うが、この問題を調べて私自身の結論を出す時間がない。私が気づいたのは、このおかしい点の納得できる説明を、あまり与えられていないことである。例えば TY ニュースから作ったこのビデオ

(<https://www.youtube.com/watch?v=xaHtxlSDgbk>)

では、ビデオの作成者は、息子を失って嘆いている人物は、銃撃の後、サンディ・フックで SWAT の制服を着ていた人物と、同じ人物だと主張している。この人物は名の知れた俳優と確認されている。そこで、これをテストするのは簡単だと思える。嘆いている父親は知られている、この俳優は知られている、そして政府は、この SWAT チームのメンバーが誰であるかを知る必要がある。この互いに似通った 3 人を、同時に同じ部屋に集めることができれば、このビデオが主張している暴露を退けることができる。しかしもし 3 人の別々の人物と一緒に集められなければ、なぜ騙す必要があったのか訊ねることができ、そこから物語全体について疑惑が生じてくる。あなたはビデオ全体を見ても、9:30 までスキップしてもよいが、同じ人物が 2 役をしているような場面を見ることができる。

“主流メディア” は、この簡単な調査をすることができるはずだが、やっていない。そうしないで彼らは、疑問をもつ人々を“陰謀論者”と呼んでいる。

Jim Fetzer 教授と Mike Palecek の共著の本があって、それは、サンディ・フックが銃規制をするための FEMA の演習で、サンディ・フックでは誰も死んでいないのだと述べている。この本は amazon.com で買うことができたが、突然、発禁となった。なぜだろう？

ここにこの本の無料ダウンロードがある、<http://rense.com/general96/nobodydied.html> 私は読んでいないので意見は言えない。しかし確かに言えることは、アメリカが現在そうなりつつある警察国家が、一般大衆から武器を取り上げることに、強い関心をもっていることだ。また私が今日聞いたニュース報道では、死んだ子供たちの親と言われる人々が、銃製造者を訴えようとしている。これはフェッツァーの主張と一致する。

.....

私が無念やる方ないのは、官憲や主流メディアの誰も、事実をチェックすることに興味を持たず、その代わりに、都合の悪い事実を持ち出す者たちを、陰謀論者として一蹴することで

ある。

9・11についての政府の説明は、ボストン・マラソン爆弾の政府説明と同じく、一つの陰謀物語である。問題は、誰の陰謀かということである。我々は「グラディオ作戦」や「ノースウッズ作戦」から、政府が、自分自身の市民を虐殺する陰謀を計画実行することを知っている。政府だから陰謀など行わないと言うのは大間違いである。

.....

9・11について言えば、あらゆる人々が証言している。100人以上の警官、消防士、それに初期報告者たちが、ツインタワーの中で非常に多くの爆発が起こったのを聞き、経験したと報告している。保全職員たちは、**ビルに飛行機が当たる前に**、地下室の下で非常に大きな爆発が起こったと報告している。これらの証言のどれ一つとして、公式物語の背後の官憲や売春新聞にどんな影響も与えていない。

2300人の建築家やエンジニアが、議会に手紙を書き送って、本当の調査を要求している。この要求は、2300名という専門家が当然受けるべき敬意をもって受け止められることなく、専門家たちは“陰謀論者”として一蹴された。

国際的な科学者団は、世界貿易センターの粉塵の中に、反応した、また反応しなかったナノ・テルミット（爆発物質）があったことを報告していた。彼らはこのサンプルを政府の関係機関と科学者に、確認のために提出している。誰もそれに触れようとしめない。理由は明らかだ。今日、科学の助成金は、連邦政府と、連邦と契約している個人企業に、大きく依存している。科学者は、9・11について話すことは、自分の経歴の終わりを意味することをよく理解している。

政府は、自分の都合によって、無力で知識がない者を利用する。ほとんどのアメリカ人は知識がなく、ビルが非対称的なダメージによって崩れ落ちるのと、爆破によるものとの違いがわからない。ジャーナリストは、質問し調査して、なお仕事を続けることはできず、科学者は、事実を公言して、なお助成金を受けることはできない。

真実を語ることは、代替インターネット・メディアに押しやられている。そこではおそらく政府が、途方もない陰謀を信じさせるサイトを運営しているが、その目的は、すべての懐疑論者の信用をなくさせることである。

